白梅学徒隊とは

　1944年12月に沖縄県で日本軍が中心となって行った看護訓練によって作られた女子学徒隊で、ひめゆり学徒隊・白梅学徒隊・なごらん学徒隊・瑞泉学徒隊・積徳学徒隊・悌梧学徒隊・宮古高女学徒隊・八重山高女学徒隊・八重農学徒隊の9つの学徒隊が存在した。

　1945年3月6日、沖縄県立第二高等女学校（白梅学徒隊）の4年生56人が、陸軍第２４師団の衛生看護教育隊に入隊し、１８日間の看護教育の後、八重瀬町の第一野戦病院に補助看護師として配属された。主な任務は、「看護活動」という名目ではあったが、実際は非常に過酷なもので負傷兵の看護・排泄物の処理・水くみ・食事の運搬・伝令・死体の埋葬がなされていた。

壕の中には血と膿と排泄物の悪臭が充満し負傷兵のうめき声，怒声が響くばかりの場所だった。

6月4日に解散命令。 その後、逃げていた学徒隊の一部が野戦病院に合流したが、米軍の攻撃を受け10名が亡くなった。行方不明者を含め、計22名が犠牲になった。